

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

令和8年1月22日

産 業 環 境 委 員 会

速 報 版

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

午前9時57分開会

○長井まさのり委員長 ただいまから産業環境委員会を開会いたします。

————— ◇ —————

○長井まさのり委員長 最初に、記録署名員2名を私から指名いたします。

工藤委員、西の原委員、お願いいたします。

————— ◇ —————

○長井まさのり委員長 次に、陳情の審査に移ります。

初めに、(1)5受理番号7 インボイス制度の導入に際し、足立区シルバー人材センターが会員への分配金から消費税分を減額しなくて済むように、足立区として援助を求める陳情を単独議題といたします。

前回は継続審査であります。

執行機関は何か変化ございますか。

○企業経営支援課長 インボイス関連でございますけれども、先日令和8年度税制改正大綱におきまして、免税事業者との取引に関する経過措置について、最終的な適用期限を2年延長した上で、引下げペースと引下げ幅を緩和する措置が示されました。

正式な法律としては、成立前ですので今後の動向というところを注視してまいりたいと考えております。

以上です。

○長井まさのり委員長 それでは質疑に入ります。
何か質疑はございますか。

○西の原ゆま委員 これまでシルバー人材センターとして、インボイス制度の影響について会員に説

明してきたというふうに委員会でも説明されてきました。

この会員さんに配られているインボイス制度による影響というものを、これホームページにも載っていましたが見てみると、この用紙を使って経過措置があるときは、消費税分1,000円になるよと、令和5年10月から令和8年9月までになったらこれが800円分になって、そして令和8年の10月から令和11年9月になると500円分になるよというこの部分を使って説明をしたということなのですが、消費税分がどんどん減るという図になります。しかし、実際に会員が得る収入は減っています、いかがですか。

○シルバー人材センター事務局長 従前から、以前もお話させていただきましたとおり、消費税の減額幅を上回るような形で価格交渉を進めておりまして、特に公共の契約に関しましては、かなりの幅で上昇幅を認めていただいております。

来年度につきましても同様の方向で今協議を進めているところでありまして、その方向でいけば十分に補えると考えております。

○西の原ゆま委員 そういうふうに今交渉が続けていて協議も行っていると。消費税分をしっかりと減税に、収入が減らないようにしていただきたいと思うのですが、これまでこの説明してきた、この部分が消費税分なんだよと、この消費税分というところで、ここにも書かれてありますが、この説明だと納得されない会員さんもいらっしゃいました。

東京地裁、大阪地裁では、過去に消費税は対価の一部であると判決で確定しています。消費者は消費税の実質的負担者であるけれども、消費税の納税義務者であるとは到底言えないと、徴収義務者が事業者であるとは解されない。したがって、消費者が事業者に対して支払う消費税分は、あく

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

まで商品や役務の提供に対する対価の一部として、その性格しか有しないから国庫に納付する義務を消費者との関係で負うものではないと、消費税は物価の一部だという判決が出ています。

この判決に照らすと、シルバー人材の会員さんたちの働いた分のお金が、インボイス制度によってどんどん収入が減っていくということのないようにしていただきたいと思うのです。

取引の対価の一部であるという性格は変わっていません。一過程において、減税の税額の一部を横取りすることにはならないというふうに判決でも出ていますので、収入が減らないように、就業単価を引き上げていくことが求められています。いかがですか。

○シルバー人材センター事務局長 繰り返しになりますが、消費税の減額分を上回るような形で、これまでもお認めいただいております。

また、民間におきまして、最低賃金の上げ幅がかなり増えておりまして、そういった意味で、区との契約においては大体8%前後の大体年間平均で認めていただいております。

来年度はそれに加えて、配賦単価におきましては、今、今のところ、4割前後という大幅な上昇幅で御相談をさせていただいておりますので、そういった意味におきまして、十分に補えている規模で調整させていただいているものと考えます。

○西の原ゆま委員 お願いします。

○長井まさのり委員長 他に質疑はございますか。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。おはようございます。

今もう西の原委員がおっしゃってくださったので一部そのとおりだなというふうに思うのですが、これ改めてインボイス制度が、地方自治体における、本当に本予算含めて圧迫していく現状がこれからあると思うのです。どんどん増やしてい

ない、それにはしっかり今対応されているというのが確認できました。

今後、このインボイス制度自体がやはりおかしいと私も、西の原委員もおっしゃっていますが、これを都にも、国にも、当足立区として、今掛かっている、助成している部分、補填しなければいけない部分というのが今後どれぐらいになるかというのは想定されてますか、今、現時点で来年度も増やしていく、補填していくということなのですが、今後ずっとこのままいくと、区がずっと予算を出し続けなきゃいけないと思うのですが、その点いかがでしょうか。

○シルバー人材センター事務局長 ちょっと質問の趣旨からそれる部分もあるのですが、ちょっと御容赦いただければと思いますが、厚労省が提唱してます新しい契約方式というものを採用している自治体がぼつぼつと出てきております。

そこで起きている話で言いますと、例えば、シルバー人材センターに認められてた事務費率について、インボイス導入に合わせて事務費率を上げるといようなことをされておりましたが、新しい契約方式によって、それがシルバーが納税するのではなくて、発注者が納税するという形に変えられるということで、シルバーに発注する事務費、特に公共等の契約においては従前の比率に戻されているという話を幾つか聞いております。

そういった点で考えますと、どこに転嫁されるかという部分も課題としてあるかなと思っておりますので、最終的には、全体でどこが負担すべきかという議論をする必要が本当はあるのかなって個人的にはそう思っております。

○加地まさなお委員 ありがとうございます、個人的な意見を言っていて、正にそのとおりだと思うのですよね。この後、どこで転嫁するかと、これもう消費税の本質の問題なのです。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

消費税がそもそも価格転嫁を前提にされているのに、価格転嫁ができないのにずっとパーセンテージを上げてきていることが原因であり、そしてまたこの1,000万円以下のフリーランス等の個人事業主の方がインボイス控除されていたのに、これも取っていくというのが本質、問題なんだろうと思うのです。

これも国が、都が今変えてきていると、いろいろと、ある意味、軽減していくんだということ自体が、今多分国民の皆さんの、全国の自治体ももうこれで大変だから声を上げていってるから変えていってると思うのです。

なので、足立区としても同等に、こういう問題が起きているよということを都なり国に上げていかなければ問題解決にならないと思いますし、どんどん負担が増えていくと思うのですが、いかがでしょうか。

○シルバー人材センター事務局長 我々としては、シルバー人材センターの上部団体であります東京★★しごと財団であるとか、全国シルバー人材センター事業協会等を通じて、かねて導入以前要望してきたところであります。

また、今回の経過措置の見直し等も踏まえると、今後何らかしらの動きがある可能性もありますので、そちらを注意しながら対応してまいりたいと考えております。

○加地まさなお委員 是非、要望いたします。よろしく願いいたします。

○長井まさのり委員長 他に質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○長井まさのり委員長 質疑なしと認めます。

それでは、各会派の意見をお願いいたします。

○工藤てつや委員 継続でお願いします。

○たがた直昭委員 継続でお願いします。

○西の原ゆま委員 シルバー会員の方の中には、自

分の健康のために働いている方、年金生活はできているけれども自分の趣味のために働いている方、更には本当に働かないと生活できない方、様々な方が何千人と働いています。その人たちの収入が減ることのないように、先ほどの説明でもありましたが、特別経過措置が設けられているけれども、やはり声が上げて、みんなで頑張っているからこそ、今後の動きもあると思いますが、その延長を求めるとともに、農協特例はあってもシルバーの方はないのは、是非頑張って要望し続けてほしいと思います。

採択をお願いします。

○加地まさなお委員 継続でお願いします。

○佐藤あい委員 継続でお願いします。

○長井まさのり委員長 これより採決をいたします。

本件は、継続審査とすることに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○長井まさのり委員長 挙手多数であります。よって、継続審査と決定をいたしました。

次に、(2)5受理番号46 消費者被害を防止、救済するため特定商取引法の抜本的改正を求める意見書を政府等に提出することを求めることに関する陳情、(3)7受理番号8 地方消費者行政の維持・強化のための対策を求める意見書を国会等に提出することを求める陳情、以上2件を一括議題といたします。

2件とも前回は継続審査であります。

執行機関は何か変化はございますか。

○産業経済部長 特に変化はございません。

○長井まさのり委員長 それでは質疑に入ります。何か質疑はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○長井まさのり委員長 質疑なしと認めます。

それでは、各会派の意見をお願いいたします。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

○工藤てつや委員 両方とも継続をお願いします。

○たがた直昭委員 両方とも継続をお願いします。

○西の原ゆま委員 いまだに悪徳業者というのは高齢者や若者をだまして、高額請求をして、銀行口座に振り込んだ後に本人が詐欺だと気付いても、そのお金は戻ってこないという被害が絶えません。これも足立区で起こっています。足立の消費者センターの相談で本当に助かったという相談者何人もいらっしゃいますので、専門員の増員のための対策が求められています。

両方とも採択をお願いします。

○加地まさなお委員 両方とも継続をお願いします。

○佐藤あい委員 両方とも継続をお願いします。

○長井まさのり委員長 それでは、これより採決をいたします。

(2) (3) ともに一括で採決を行います。

本件は、継続審査とすることに賛成の方の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○長井まさのり委員長 挙手多数であります。よって、継続審査と決定をいたしました。

次に、(4) 6 受理番号 9 2030 年の CO2 削減目標を 60% 以上と設定することを求める陳情を単独議題といたします。

前回は継続審査でございます。

また、報告事項 (10) 環境基本計画の策定に係る環境審議会専門部会の実施についてが本陳情と関連しておりますので、あわせて説明をお願いいたします。

○環境部長 おはようございます。よろしく願いいたします。

報告資料の環境部の方を御用意いただきたいと思います。

2 ページになります。

環境基本計画の策定に係る環境審議会専門部会

の実施について御報告するものでございます。

専門部会は 2 つございます。CO2 削減目標設定・方策検討専門部会、それからもう一つが、意識啓発・行動変容専門部会でございます。記載の 11 月に開催をいたしました。

3 ページ (1) の CO2 削減目標設定・方策検討専門部会の確認した方向性について御説明します。

新たな CO2 削減目標につきましては、2035 年度目標、2013 年度比 61% 以上削減、2040 年度目標、2013 年度比 73% 削減を確認したところでございます。また、家庭部門の CO2 削減効果が高い住宅等の断熱化等に関する周知や支援策を充実するなど、あわせて確認したところでございます。

続きまして、意識啓発・行動変容専門部会でございますけれども、下の方確認した方向性でございますが、環境意識の低い層への発信誘導に加えて、学びや取組の報告の場として活用できるイベントを研究する、また、環境マイスターや区内大学地域とも連携し、区民や子どもを巻き込む仕組みを構築する、また、若者に対しては、SNS を活用した興味を引く発信と体験型事業による行動変容の誘導策をバランスよく展開するということを確認させていただきました。

来月 2 月 9 日に環境審議会を行いまして、更に議論を深めていきたいと考えてございます。

私から以上でございます。

○長井まさのり委員長 なお、所管事務の調査 (1) 二酸化炭素排出実質ゼロに関する調査についても、本件と関連しておりますので、あわせて質疑を行います。

何か質疑はございますか。

○西の原ゆま委員 この間の委員会でも、一人一人の行動で CO2 削減の貢献はできる、足立区とし

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

でも挑戦的な目標に取り組んでいくべきだと述べてきましたが、そういった取組、足立区下の啓発など、今現在どのようなことを行っているか教えてください。

○環境政策課長 足立区から区民一人一人に★★啓発についてでございます。

代表的なところでございますと、CO₂を削減するために様々な取組としましては、10月に、A-Festaのところで環境ブースを拡大して、環境フェスティバルという形でやらせていただきまして、ここは区だけではなくて、様々な環境に取り組む団体の方にも出展していただいて今回は拡充してPRしたというところと、あとは、太陽光蓄電池のその補助金、今年度も拡充して、かなり拡充して支援をさせていただいている、こういったところで支援をさせていただいてるところでございます。

○西の原ゆま委員 A-Festaで環境ブースだったりだとか、太陽光の補助金だとかあったのですけれども、私は最近、すごく頑張ってるなと思った瞬間があったのは、プラごみ回収について、4月から全区で始まりますが、あだち広報のお知らせのところで、千住地域、小台地域、宮城地域、そして新田地域で、プラごみ回収をした中の実績として、杉の木が8万2,900本、CO₂削減、CO₂吸収量をしていると記載、絵もあってすごく分かりやすかったと、工夫されていてとてもいいなと思いました。

このように、分かりやすいイラストと、CO₂削減が区民一人一人の行動と認識とか、頑張っているところが進んでいるというのが分かっていいなと思ったのですけれども、これからも広く、こういった工夫、啓発、告知を続けていってほしいと思いますが、その点に関してはいかがですか。

○環境政策課長 お褒めのお言葉、どうもありがと

うございます。

確かに分かりやすく示していくということは、環境部としても★★一丸となって継続してやっていきたいというふうに思っておりますので、今後できることはやっていきたいというふうに考えてございます。

○西の原ゆま委員 あともう一つなのですが、やっぱり一人一人の行動でといった場合は、人ごとではなくて、やっぱり区民一人一人に取り組んでもらうことが必要だと思っているのですが、ここで今調べてきたのが25年以上前から環境文化都市という長野県の飯田市の暮らしの中でできること、事例集について調べてみました。

その中では、手を取り合って一歩ずつ踏み出そうという吹き出しがあって、赤で、環境にやさしい暮らし、地域の豊かさ、魅力を育てること、未来につながる持続可能なまちをつくることと本気で取り組まなくては行けませんと、そこで大切なのは、自分には関係ないと思わないことと市民も事業者も地域も行政も一人一人が環境について考え、小さなことでも行動することと書いてありました。その一歩がまちを変える大きな力になりますと赤で強調されていて、事例集として、8ページにわたって、生活編、事業活動編、地域活動編、3つの柱でまとめられていました。

こんなにもたくさんできることあるんだと私自身も気付かされる資料だったのですけれども、足立区として、自治体も創意工夫を凝らしながら、こういったことできるよねというアイデアを箇条書でぼんぼん、ただの事例集なのですけれども提供してくれるというのはとてもいいことだなと思ったので、そういった取組も区民に目に見える形でどんどん行っていくべきだと思いますが、その点に関してはいかがですか。

○環境政策課長 西の原委員、御指摘の正に区民が

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

行動に行くような、その後押しになるようなものというものは、私どもとしても非常に大事だと考えてございますし、今回報告させていただいた環境審議会のところでも同様な意見が出ているところでございます。

様々そういったリーフレット、そういったものの活用であるとか、様々なものを研究して、今後の区民の行動に促す媒体として検討してまいりたいというふうに考えてございます。

○長井まさのり委員長 他に質疑ございますか。

○加地まさなお委員 お願いします。

前々回からずっと、そもそも論ずっと話させていただいていて、今回のこの資料見させていただくと、かなりいいなと思ったのですよね。

現実的にできるところをやるというので、目標に向かっていくというのは必要ですし、環境問題考えるという在り方は、もうやられているのは理解しているのですけれども、これ、ここにありますように、報告3ページですよ、新たなCO2削減目標が、2035年度目標に2013年度比に比べて61%減少と、2040年度が2013年度比に比べて73%減少というふうに書いてあるのですが、これ、そもそも2013年度比と言われても多分皆さん分からないと思うのですね。

だから何、基準がまず書いてないのですよ、これ。何を基準にして、どこまでの終わり、削減するのかというのを書いてないのですけれども、これは意図的なのか、それとも書いてなかった、ちょっと書き忘れなのか、お聞かせください。

○環境政策課長 分かりやすい資料というところでは、こちらのところ、資料が分かりづらくて大変恐縮でございます。

そもそも2013年比というものが、パリ協定が2015年にあったというところでの、その準備期間であったということやと、国などそう

いったものを、様々な目標値を足立区としても検討する際に、この2013年、長らくこちらを基準年としてきたという形でございます。

今回、部会での方向性という形で簡素にさせていただいてございますが、今後記載は分かりやすくしてまいりたいと、なぜここが2013年なのかということを知りやすく記載してまいりたいというふうに考えてございます。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。そこすごい重要だと思っていて、例えば2013年度が非常にこのデータが悪いとか、データがいいとかでかなり変わると思うのですよ。その辺、ごめんなさい、そもそも論なので。これはそんなに難しいことではないと思いますし、根拠も必要だと思います。

今おっしゃってくださったので、なぜ2013年なのか、今も2015年がパリ協定があったというのにあえて2013年にしている、には意味があるんだということをまず皆さん、示していただけないと、なるほどそこを基準にしているんだねというふうにならないので、そこ是非よろしくをお願いします。

と同時に、正直かなり厳しいのではないかなというふうに思っています。目標を持つことはすごく大切だと思ってるのですが、これには区内の排出の構造も変えていかなきゃいけない。

その中の一つが今回のプラスチックごみだと思うのです。可燃、燃やすごみを減らすことによって、このCO2削減にかなり貢献するのではないかなと思ってるのですが、その点はどういうふうに考えておられるか伺いたします。

○足立清掃事務所長 加地委員、御指摘のとおり、プラスチックごみの削減は、ごみの減量のみならずCO2の削減に大きく寄与すると。具体的には、平均を取ると、1tのプラスチックごみをリサイ

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

クルすることによって1.47tのCO₂の削減効果があるというふうに考えております。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。

これはかなり効果が出るもんだということだと思います。

これにはやっぱり区民生活、区内の区民の皆さんの協力が必要ですし、また中小企業の事業者さんの協力も必要なのですが、と同時に影響もあると思うのです。

その点、区民の皆さんはまだこれからなので、千住の方でこれから本格的に始まりますが、中小企業等というのは、有料ごみで事業ごみになるので、ちょっと若干違うのかなと思うのですが、その点というのをどういうふうに考えているのかをお伺いしたいと思います。

○足立清掃事務所長 事業者の方におきましても、一定規模以下の事業者に関しては、有料ごみを貼って家庭ごみと同じルールで排出していただいております。

間違いなく中小の事業者様には家庭と同じように影響があると思っておりますので、今までやってきた★★ポスティングですとか、今後2月のあだち広報も全戸、全事業者に配布する予定ですので、そうした家庭ごみと同じように、事業系ごみをシールを貼って出していただいている事業者の方にも、引き続き周知をしまいたいというふうに考えております。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。

基本的には多分、事業者さんというのは産廃業者さんに依頼して、ステッカーを貼ったりとか、月契約でやられてると思うのですが、その辺はあんまり、出る部分と、今後、何か変容があるというか、あったときにはちょっと教えていただきたいなと思っていて、もともとスキームが違うので問題ないかなと思っていたのですが、その部分

でもうこの環境問題に対してどれぐらいt数が出てるのかとか、それでCO₂どれぐらい削減できるのかってことを考えてみれば、この目標達成値に向かっていけるのかなと思いますので、そっちのデータの方も是非出していただければと思います。要望させていただきます。

それと同時に、最後になりますが、これは、国や東京都、目標をずっと聞かせていただいて、世界的な基準というのもあると思います、それを基準にして数値を挙げて目標値にしているというのも理解しました。

ですが、これ、実際に区が責任を持って実行とか検証できる範囲と、そうでない部分というのがあると思うのです。もう国が決めていること、東京都が決めていること、でも実際は足立区がやっていることなので、これどういうふうに整理しているのかなというのが気になったのです、その辺ちょっと聞かせていただければと思います。

○環境政策課長 加地委員おっしゃるとおり、CO₂排出は足立区だけでできるものではございません。

前回の委員会でも答弁したかと思いますが、区ができることというのは、CO₂削減の1割程度という形になってございますので、ですからこの国や都の目標値の整合というのが重要だということ、これは理解いただいてありがとうございます。

で、ここで審議会の分科会の方で出たところであればこそ、家庭部門であれば区民の方々に御協力を求めることができるであろうということ、排出の割合も高いということがございますので、家庭部門の削減の目安を示していこうというところで議論の方を進めてるところでございます。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。

そこを区分けするのが必要なんだというのを今回ずっと委員会させていただいて感じました。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

国がどうしても示しているので、東京都が示しているの、それに対してやらなければいけないことというのはあると思うのですが、実際は、できることというのは、足立区では1割程度という中で、区民の皆さんに逆にそれをしっかりと周知することによって、なるほど足立区でやれることというのはこういうことなんだと、それにコミットしていくんだねということを説明していけば、皆さんの協力を得られると思うのです。是非そういった形でも★★ＣＯ２削減というのに取り組んでいただければと思います。要望させていただきます。

以上です。

○長井まさのり委員長 他に質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○長井まさのり委員長 質疑なしと認めます。

各会派の意見をお願いいたします。

○工藤つや委員 継続をお願いします。

○たがた直昭委員 継続をお願いします。

○西の原ゆま委員 こんな本当にいっぱい事例集があって、これを読むだけでも、区民一人一人が、これだったらできる、やってみよう、ＣＯ２削減に貢献してみようと思える人を増やしていくためにも、ＣＯ２の陳情に対しては、採択でお願いします。

○加地まさなお委員 継続をお願いします。

○佐藤あい委員 継続をお願いします。

○長井まさのり委員長 それでは、これより採決いたします。

本件は、継続審査とすることに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○長井まさのり委員長 挙手多数でございます。よって、継続審査と決定をいたしました。

次に、（５）７受理番号９ 足立ブランド認定

と認定企業への支援の仕組みの改善を求める陳情を単独議題といたします。

今回は継続審査であります。

執行機関は何か変化ございますか。

○産業振興課長 特に変化ございません。

○長井まさのり委員長 質疑に入る前に、各委員に申し上げます。

本陳情は足立ブランド認定と認定企業への支援の仕組みを改善してほしい、また、足立区に縁のある事業者の活性化を図ってほしいという内容について審査をしております。足立ブランドの非認定について、その原因を突きとめていく願意ではございません。

状況に変化はありませんので、これまでの委員会と同じ質疑を繰り返すことのないように御協力をお願いいたします。とはいえ、新たな事柄で、認定基準について陳情の趣旨、理由に関連して質疑する場合もあるかと思っておりますので、そうした点も踏まえて、どうか御協力をお願いいたします。

それでは質疑に入ります。

何か質疑ございますか。

○西の原ゆま委員 私も足立ブランドの支援の仕組みの改善を求めるため、これから足立区の産業を発展させていくために、すばらしい技術が足立区から生まれていることを、区民にもっともっと知っていただけるように、改善を求める立場で質問したいと思います。

まず初めに、足立ブランドのホームページに行きました。江東区の江東ブランドの紹介がありましたので、調べてみました。

江東区はブランド認定に際して審査員を設置していました。区の職員が２名、外部の方が専門の大学教授が１名、技術センターの方が１名、そして民間企業の専門の方が１名で、計５名、５名じゃない、外部の方５名で区の職員が２名なので、

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

計7名で一次審査、二次審査を行っています。

一次審査は、企業の取組などが分かる資料などを見て書類審査、二次審査は、区の職員と委託事業、これは江東ブランドをブランディングしている方で、企業訪問をして、1時間半から2時間の聞き取りや技術を見るそうです。これは、事前に企業にお知らせをして訪問日を決めていると聞きました。

どうして事前に予定を合わせるのか聞いたら、訪問日を決めるのは、現場だと安全性の確保もしなければいけない、いきなり技術を見せることはできないこともある、この分野ではこの職員さんに聞かないと分からないという場合もあるため、必ず事前に予定を合わせて、約束をして、現場を訪問しているということだそうです。

そして、1時間半から2時間長い時間を確保していくには、やはり小さい会社もあって、1人、2人でやりくりしている会社にとっては、事前に知らせないと仕事の時間もありませんので時間を作れないと話してくれました。

そして、認定基準は独自性、継続性、そして、新しいことにチャレンジしているかどうか、そのことも重視して認定をしてもらっていました。

足立区が非認定基準にした製造拠点が区内にないという企業に対して、江東区は認定企業として活躍しているそうです。製造拠点が区内にあるか区外にあるかという基準は、認定基準の中には入っていないとおっしゃっていました。

大企業との技術、市場競争の厳しさがあるかどうか、非認定、認定にする、そういった基準にはしていないと言っていました。

なぜそういった基準をしていないかと聞くと、中小企業でも新しいことにチャレンジしていたり、大企業ではできないようなすばらしい技術を持っているところもある。それをブランドして知らせ

ていくことに江東ブランドは意義があるとおっしゃっていました。区の職員に聞きました。

この点からも、足立ブランドの認定について、公平公正な立場で認定基準、そして、一次審査、二次審査のやり方も含めて、改善修正をすべきではないですか。

○産業振興課長 一次審査につきましては書類審査ということでやっておりますが、先ほど二次審査、江東区で事前に連絡をしてちゃんと調整して行っているというお話もございましたが、当区におきましても、全て訪問先の企業と調整をした上で丁寧にお話をさせていただいております。

そういった事情もございますし、あと二次審査ですね、ちょっと何回も同じことを申し上げて申し訳ないのですけれども、今回の非認定というところでは、一次審査は区内、一次審査の項目については一旦通過をしてございます。

基本的に二次審査、物語性ですとか、話題性ですとか、PR力、そういったところで製造に至る背景や製品のエピソードなど、そういったところをきちんと聞き取った上で学識等の専門の方たちが判断した結果でございますので、審査内容について、これから見直すということは考えてございません。

○西の原ゆま委員 今の産業振興課長の方から、二次審査のときは事前に行くよという告知をしているということだったのですけれども、私がここで言いたいのは、江東区の江東ブランドの人たちは、何時に何月何日の何時に行きますよと、時間を取っていただけますかという、そういった細かいことも含めてちゃんと事前にお知らせをして行くのですね。

なので、今までの委員会のやり取りの中では、誰が来たのかとか事前に行きますという場合は、言ったら、そこでいろいろ準備をされてしまうか

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ら、そこは名前とか、そういった人を明かさないで行くというふうにおっしゃっていたので、いや、江東ブランドではそういったやり方を取っていないよと、しっかりと誰が訪問をして、その技術、そして企業が何をアピールしているのかというのを1時間半から2時間の聞き取りをしているのですね。

足立ブランドの審査、二次選考の訪問でもそのようなことを行っているのか、違いますよねという質問なのですがいかがですか。

○産業振興課長 申し訳ございません、江東区と足立区の違いというところで、江東区は認定、再認定の業務を委託事業者に任せているという点が違います。足立区の場合、直営でやってございますので、区の職員と判断をする専門家の先生たちが訪問させていただいております。

明かさないというのは、訪問する学識のお名前については、直接働き掛けがあった★★困りますので、それは一切明かしておりませんが、いつ何時に、ちょっと時間がずれてしまう場合もございますけれども、訪問する日時についてはきちんとお示ししてございますし、訪問する人数についてもこちらから、あらかじめお知らせしております。

○西の原ゆま委員 訪問する日程等をしっかりとやっているということだったのですが、この江東区で委託していても、区の職員もしっかりと行っていると、訪問していますというふうに言っていました。なので、委託であっても区の職員が何も関係ないよという立場ではないということは言いたいと思います。

独自性、継続性、そして新しいことにチャレンジしているかどうかという基準について詳しく聞いて、いろいろ私もすごいなって、江東区は中小企業を応援してくれてるなというふうに思ったのですが、足立ブランドのホームページのコ

ラムを読ませていただきました。

このコラムでは、認定企業の社長さんであったり、職人さんであったり、いろいろインタビューがわ一つとありまして、地域に貢献している、町会も一緒に盛り上げている、環境問題もやっているところもあって、すごいコラムが、とてもいい記事で、こういった人たちが足立ブランドを支えているんだと、紹介されていましたが、この非認定された企業もいまだにこのホームページの中では認定企業のインタビューとして紹介されています。

足立区として、区民にまだまだ、足立ブランドが3割程度しか知られていない、そんな中で足立ブランドとして活躍して、地域にも入って、そして環境問題にも積極的に取り組んでいる、その足立ブランドをやっばり支えていく立場として、やはりこの一次選考、二次選考の基準、この間、これから、前回もいろいろ話してきたのですけれども、一次で通過している内容の基準で非認定に、一番の非認定理由にされているということが、これから足立ブランドを認定してもらおう、これから足立ブランドに認定してもらいたいという企業が、認定する、そして審査に入ったときに、同じようなことが今後も起こりうる可能性がありますので、同じ過ちを繰り返さないためにも、こういった一次選考、二次選考の検証が必要だと思います、いかがですか。

○産業振興課長 過ちとは考えてございませんので、選考基準を変更する予定はございません。

○西の原ゆま委員 過ちとは考えていないということだったのですが、前回の答弁では、こちらは全く連絡、全くなく、こちらから何回も連絡を申し上げているけれども卒業認定企業として感謝状を送ることも拒否されているとありましたが、私もどうしてだろうと、区の言い分と企業とのやり取

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

りが、つじつまが合わないので、私も陳情者の方に質問を聞いてみましたが、連絡を来ているという事実はありませんと、説明させてほしいという連絡が足立区から来たことはないというふうにおっしゃっていたのですね。これは説明する責任が足立区としてあると思います。

是非、諦めずに連絡をして、ちゃんと卒業企業として感謝状を送りたいということ、どうして非認定になったのかという目的と意味を理解してもらうためにも説明が必要だと思います、いかがですか。

○産業振興課長 令和7年3月7日に、こちらの方から、対面により丁寧に説明したいことを電話で連絡してございます。

その場で、まずは非認定の通知見て考えるということで、それで郵送を要望されております。

その後、区民の声の準備があるということで、やり取りが始まっておりますが、一旦そこで拒否はされております。

○西の原ゆま委員 それで拒否をされたからといって、全くなく、こちらから何回も連絡を申し上げてるとおっしゃっていたのですけれども、何回も連絡をしたのですか。

○産業振興課長 すみません、私の方でちょっといろいろな記憶が混ざってしまったところがありますが、電話ではございませんけれども、お手紙等々して、何回もやり取りをしてございます。

以上です。

○西の原ゆま委員 是非、こちらから何回も連絡を申し上げてるとおっしゃったときに、私も連絡をすることが多々あります。病院で入院してたときとか、なかなか連絡がつかない方は頑張って連絡をするように努力をして、つながることもありますし、この方は、目的と意味が理解できないと、卒業認定と感謝状を送るということの足立

区が説明を必要、足立区との説明がまだまだ納得されていないのですよね。そういったことも含めて、私はやはり説明する責任があると思います。

そして、まだ区民に3割しか知られていない足立ブランドを、公平公正な立場で、前回も委員会で示していただきました一次選考の認定基準、二次選考の認定基準とあったのですけれども、それがやっぱり一次選考で通っていても非認定にされなければいけない、区の説明責任があると思います。

足立ブランドのホームページを見ている、コラムでは、本当に皆さんが一生懸命技術を継承し、足立区を産業化、発展させるために頑張っている、そこをブランドなんだからと、その程度で、何ですかね、専門性をしっかりとやらないと非認定になるんだという言い方だけでは納得がいかないと思いますので、その点はしっかりと、一次選考、二次選考のやり方も含めて、修正改善をすべきだと思います。要望します。

○長井まさのり委員長 他に質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○長井まさのり委員長 質疑なしと認めます。

それでは、各会派の意見をお願いいたします。

○工藤てつや委員 継続でお願いします。

○たがた直昭委員 継続でお願いします。

○西の原ゆま委員 すばらしい技術を持っている事業者を区が支援する立場に立つべきだと思います。足立区の行政に対して信頼をして、この間貢献してくださいました。公平公正の立場に立っていただきたいという思いです。

まだ足立ブランド認定企業への支援の仕組みの改善が必要ですので、採択をお願いします。

○加地まさなお委員 継続でお願いします。

○佐藤あい委員 継続でお願いします。

○長井まさのり委員長 これより採決をいたします。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

本件は、継続審査とすることに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○長井まさのり委員長 挙手多数であります。よって、継続審査と決定をいたしました。

————— ◇ —————

○長井まさのり委員長 次に、所管事務の調査を議題といたします。

(1) 二酸化炭素排出実質ゼロに関する調査についてを単独議題といたします。

先ほど陳情の審査で質疑を行いました。本件について他に御意見等ございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○長井まさのり委員長 なしと認めます。

————— ◇ —————

○長井まさのり委員長 次に、報告事項を議題といたします。

(1) から (9) 以上 9 件を産業経済部長から、
(11) 以上 1 件を環境部長から報告をお願いいたします。

○産業経済部長 それでは、産業環境委員会の報告資料、産業経済部の資料 2 ページをお開きください。

初めに、海外販路拡大支援事業の進捗でございます。

今年度、香港での商談会を 10 月に行いました。足立区から 10 社が参加をいたしまして、現地のバイヤーさん 34 社が参加ということで、131 件の商談を行いました。成約に関しては、恐らく 15 件の見込みということで 750 万円を見込んでいます。

商談会の様子は 2 ページの下に記載のとおりです。

3 ページの方に、事業者の振り返りがございまして、30 分ほど掛けて商談できたので、じっくりと説明することができてよかったというふうなお話をいただいております。

4 ページをお開きください。

これまでの海外販路拡大支援事業、令和 3 年度から実施してまいりました。そちらの達成状況、課題等について、まとめてございます。

まず、商品開発とかブランディングについて、これはやはり時間が掛かるというふうなところで課題になっております。

また、費用対効果についても、区として委託に掛けた費用に見合った売上げがあるかというところ、なかなかそこまで 4 年間では達していないというふうなところがございます。

また、これまで伴走支援してきた事業者の現在の状況でございますが、自走に関して、自分で海外販路開拓に取り組めるように、ほとんどの事業者がなっております。

一方で、これまでトキメキ等でこの事業に参加する事業者を募ってまいりましたが、新たに参加する事業者が少ないというふうなのが実情でございます。

そういった形の中で次のページ、5 ページになりますが、今後の方針ということでまとめてございます。

結論といたしましては、この海外販路拡大支援事業については一旦終了とさせていただきたいと思っております。

理由については 3 点書かせていただいておりますが、先ほども申し上げた自走の準備ができてきたこと、あとは集団で出店をするというふうな方式を取ってございましたけれども、商談によっては

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

展示会の地域がなかなか合わないですとか、あとは全部で出店をすると各社の商品に関してPRしにくいというふうな内容、そういったものがありますので、一旦終了というふうな形にしたいと考えております。

その一方で、今後の支援の方向性でございますが、下の図にありますとおり、ブランドの完成度、それから経験値に応じまして区として伴走支援していく、また、あるいはジェトロ、★★ですね、そちらの方に橋渡しをして伴走支援してもらったり、あるいはブランド力がまだまだついていないところは、国内販路支援事業の方のブラッシュアップ支援、そちらの方でまず武者修行していただいてから海外に出ていただきたいというふうなことで考えております。

6ページになります。

今後は、こういった内容をトキメキ等を通じて周知をしてまいります。

続きまして、7ページでございます。

緊急経営資金の受付状況でございます。

今年度下半期の10月から12月まで3か月間でございますが、大体平均して月★★件程度で推移をしております。昨年度に比べますと、若干多めの数字でございます。今後これがどのような数値で推移していくのか、注視をしてまいります。

続きまして、11ページをお開きください。

中小企業人材採用支援助成金の受付状況でございます。

12月末現在で300件の件数を受付しておりますまして、1億円余の受付になっております。

飛びまして13ページの方になります。

前回の委員会から報告しておりますが、定着状況の報告でございます。

12月につきましては8件の企業の方から報告を受けておりまして、そのうち6件が全員就労中

というふうなところで報告を受けております。若干、仕事をお辞めになられた社員の方がいらっしゃるといふ内容でございます。

続きまして14ページをお開きください。

消費喚起策の進捗状況でございます。

初めにPay Pay商品券の方でございますが、15ページの方に実績の方の表が載っております。

1月14日時点で51.3万口ということで、なかなか販売件数が伸びていないというふうなところが実情としてございます。今後もSNS等の周知で、できるだけ販売数を伸ばしていきたいというふうに考えております。

16ページでございます。

レシートde商品券事業になります。

こちらにつきましては、4月27日からのキャンペーン開始に向けて、現在、契約請求の方の手続を進めているところでございます。事業者が決まりましたら、迅速に、準備に遅滞のないように打合せをして進めてまいります。

続きまして、17ページ、第26期足立区農業委員会委員の募集についてでございます。

現在の農業委員につきましては、この7月19日に任期切れとなりますので、募集をするものでございます。任期、報酬、募集人員等は下に記載のとおりでございます。2月10日のあだち広報で募集記事を掲載をいたします。

続きまして、18ページになります。

巡って探せ！千住宿の秘宝の開催結果の報告についてでございます。

こちらにつきましては、2番実施結果のところにあります登録者数は4,367人で、延べ参加者数、こちらにつきましては8万6,891人でした。それぞれ目標に対して87%の結果でございまして、残念ながら100%に至らなかったと

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

いうふうなところでございます。

費用につきましては、3,500万円弱でございます。登録者1人当たりで割り返すと8,000円余、延べ参加者数で割り返すと400円余というふうな数字になります。

19ページの方を御覧ください。

アンケートを実施をいたしまして、そちらの方にお答えいただいた方の属性でございます。今回、足立区外の方に関しては、47%の方が足立区外の方でございました。

続きまして、20ページの方にはイベントの満足度ということで記載させていただいております。

97%の方が満足というふうな回答をしていたしております。

続きまして、また飛びまして22ページになります。

この区外の方々に対して、足立区にまた来たいかどうかというふうなところをお聞きしましたところ、また来たい、機会があれば来るというふうな御回答いただいた方が98%でございました。

また、イベントの参加前後の足立区の印象につきましては、参加する前に比べて、参加した後によいというふうに回答していただく方の数が28%ポイント増えておりまして、参加したことによって千住を通じて足立区のイメージがよくなったというふうに考えております。

今後でございますけれども、今回人気が高かったスポット、そういったものをPR等に生かしていくとともに、今後、謎解きイベントするときには、期間ですとか、料金ですとか、対象者、手法等、検討をしてみたいと思います。

続きまして、24ページ、光の祭典の事業者プロポーザルの実施でございます。

今年度の事業者が3年目を迎えますので、令和8年度の事業者選定を行うものでございます。提

案限度額につきましては6,100万円というところで、3年前に比べて1,900万円ほど増えておりますが、下の手法にあるとおり、人件費、資材費、工事費、そういったものが増加している結果になっております。

続きまして、最後26ページになります。

舎人公園千本桜まつりの開催についてです。

今年3月28日、29日の土日で舎人公園において開催をいたします。今年度につきましては、昨年、既設のトイレの待ちの列が非常に長くなっていたというふうなことがありましたので、仮設のトイレを10基から20基程度設置をいたしまして、トイレの行列の解消に努めていきたいというふうに考えております。

雑駁ですが、私からは以上でございます。

○環境部長 恐れ入ります、環境部の報告資料、お願いいたします。

4ページになります。

ごみ屋敷対策に係る新たな取組（案）について御報告いたします。

新たに2つの取組を行いたいと思っております。

まず新規ですけれども、自己保有物の一時移動支援ということで、自宅にあるものを試しに一定期間別の場所へ移動する実体験型の支援でございます。こうすることにより、心理的ハードルを軽減し、処分の決断を後押しするものでございます。

2つ目が拡充になりますが、ごみ処分支援の費用の上限金額の拡充でございます。これまでごみ処分支援につきましては50万円上限でしたけれども、それでは取り切れないごみが、これまでもありましたので、100万円に拡充するものでございます。

2番には現状の課題を記載してございます。

5ページ、6ページには、それぞれの新たな取組の詳細について、少し図解して説明をしている

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ところでございます。

令和8年度からこれを予算認められれば、新たな取組をしていきたいというふうに考えてございます。

私から以上でございます。

○長井まさのり委員長 それでは質疑に入ります。

何か質疑ございますか。

○工藤てつや委員 すみません、私の方からは産経部の14ページ、消費喚起策の進捗状況について幾つか伺いたいと思います。

冒頭、部長の方から、この足立区プレミアム商品券については非常に伸び悩んでいるというようなお話がありました。

現時点でこの施策について、区民の声、それから区民の皆様の感触、このあたりについてはどうか。それから区としての評価、また、課題として捉えているものがあれば、現時点で結構なので教えていただきたいと思います、いかがでしょうか。

○産業振興課長 区民の反響というところでは、区民の声という形でマイナスの方の声は20件程度いただいております。

当初、物価高騰対策ということで、国の方が給付金を配るというタイミングでPay Pay商品券が始まったということで、ほかの自治体はお金配るのに何で商品券を買わせるんだみたいな、しかもスマホしか使えないというところでの御批判は当初多うございました。

やはり、あと高齢者への配慮が足りないですとか、購入ルールが複雑である、あとセット販売というところがちょっと難しいのではないかなというような声が来てございます。

また、ちょっと商店街の連合会の方の方たちにはどうですかというふうに聞いたのですが、使用の方はそんなに難しくないといいことで、自

然と払えていくので、登録店であれば、そこはスムーズにできてるよというお話などもいただいております。

あとやはり、こういうところで使えるよかって、もうちょっと具体的にやった方が区民の皆さん分かりやすいかもしれませんねなんて話もいただいているところでございます。

次年度への課題としましては、今年度1回しか買えなかったという課題がございました。試しに4,000円ぐらい買って見て、いいからちょっと増やしてみたいということができませんでしたので、この点、Pay Payには申入れしてございます。もし次回チャンスがあるのであれば、その辺は解決したいということでお話しはいただいております。

あと、A券、B券ということでちょっと、本当だったらA券で使えるお店で全部使いたいのが駄目だったら結構ですって感じで、私も御案内してたら断りを入れられてしまったところもありますので、この辺券種をどうにかできないのかというのは引き続き検討を続けていきたいと思っております。

Pay Payの商品券のサポート窓口、早くから開始していたのですけれども、実際始まってからの方が相談が多かったということもございまして、その窓口の開設についてもちょっと次年度検討として考えたいと思っております。

○工藤てつや委員 産業振興課長、詳しく本当にありがとうございます。

様々、課題はもう本当にたくさんあるかと思うのですけれども、15ページの上段のところのキャンペーン利用状況が出ております。

3月10日が最終ということになるかと思うのですが、予算の方見てみますと、52億円の予算に対して1月14日時点で26.6億円、割合で

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

いうと51.1%ということなのですけども、残りの日数、換算すると55日という状況なのですが、これどのぐらいの使用率になると見込んでいるのか、このあたりについての感触をちょっとお聞かせいただきたいと思います。

○産業振興課長 現在毎日0.2%ですとか0.1%ぐらいの増加率になってございます。このまま0.2%でいけば60%ぐらいは行きそうなのですけども、ちょっと日によって下がることもございますので、ちょっと控え目にいくと56%は確実にいってほしいなとは思っております。

62%いければいいかなとも思っておりますが、PRということで、あだち広報の方で枠をちょっと今いただけないかということで確認してますので、もう一度PRを打ちたいとは思っております。限りがありますけれども、SNSとかFacebook等を活用して、引き続き区民の方にPRをして、少しでも販売が伸びるように努力はしていきたいと思っております。

おとといですかね、朝、めざましテレビというところで放送したら、やはり少し販売が伸びたということもありますので、引き続きPRは頑張っていきたいと思っております。

○工藤てつや委員 今、課長のお話だと60%ぐらいになるのではないかということなのですけども、これなかなか年度内には消化し切れないというような状況を招いているというふうに思うのですけれども、この予算を消化し切れなかったら終わりということではなくて、そもそもこのPay Payのプレミアム商品券の企画をした際に、もう二番煎じというか、予備的な消費喚起策というものも、やはり手だてとして考えていく、考えておくべきではなかったのかなというふうに思うのですよね。

その辺というのは、この施策を考えるときに思

い付かなかったのか、その辺りについてちょっと聞きたいのですが、いかがですか。

○産業振興課長 キャッシュレスキャンペーンの区外へ出さない手段として、Pay Pay商品券という新しいものをお願いしていたというところで、新しいことをちょっと試行的にやらせていただくところもございましたので、ちょっと次の更なる手というところは、すみません、そこまで余裕がなくて、新しいことはちょっと考えることには至ってございません、申し訳ございません。

○工藤てつや委員 今後は、そういったところも踏まえた上で、やはり施策を打っていく、こういう考え方がやっぱり必要だと思います。

ほかの委員からいろいろな情報共有してる中でも、これで終わりなのかねって、みんなやっぱり、そういう声が出てきてますから、もし、予算、せっかく予算立てしてるのですから、それで消化し切れませんでしたと終わるのではなくて、やっぱりそういった、もしこれが駄目だったら次の二番煎じでこういうのがあるよというようなところで、やっぱりそこまで考えていくというのが私は必要ではないかと思うのですが、この点についていかがですか。

○産業振興課長 今回の結果も踏まえて、次年度、もう少し手堅い予算を組んでいくことと、また、新たな消費喚起策、引き続き検討を続けてまいりたいと思います。

○工藤てつや委員 是非お願いしたいというふうに思います。

先ほど産業振興課長の方からお話もありましたけれども、2月の末までには、★★ということでは区民の皆様お1人当たり1万円が給付される予定だと思うのですよね。

ですからこういうものも、このPay Payの、このプレミアム商品券に絡めるとか、そういうも

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

のも、ちょっと時間のない中で厳しいかと思うのですが、こういったところにリンクさせるということも考え方的にはあるかと思うのですが、いかがですか。

○産業振興課長 低所得世帯の方へ向けてが2月に始まるというふうに認識してございます。

そのタイミングで買っていただいて使い切れるかということもありますので、何かうまい手打てがないかは引き続き検討させていただければと思います。

○長井まさのり委員長 他に。

○岡田将和委員 私からは、18ページ、巡って探せ！千住宿の秘宝の開催結果報告について、お伺いいたします。

私の記憶では9月12日から始まったこのイベントなのですが、当初、参加冊子配布場所は足立区役所の産業振興課と千住駅の駅、そして17か所の区民事務所に置かれていって始まったと記憶しております。

ここの19ページの(2)を見ると、様々な場所で冊子を配布したと書いてありますが、いつから、具体的にどのような形で配布場所が拡大したのでしょうか。

○観光交流協会事務局長 配布場所については、岡田委員御発言のとおり、当初、区役所、区民事務所等で配布開始しておりましたので、当区議会の方からも対象店舗になっているところでも配布をすべきという御指摘もいただきまして、対象店舗の方にも配布を御協力をいただくということで、ちょっと詳しい日にち記憶にございませんが、開始して2週間、3週間後ぐらいには各店舗の方にも御協力をお願いしたところというふうに記憶しております。

○岡田将和委員 順次拡大していったということなのだと思いますけれども、4万冊、冊子の方、配布された

とありますけれども、これは全てはけたのでしょうか。

○観光交流協会事務局長 冊子の方は4万冊準備をさせていただきました。

全ての配布ができていないわけではございませんで、各店舗の余ったものを廃棄の部分もあると思いますが、すみません、廃棄した数をちょっと私集計をしておりますので、まいた数ということで記載をさせていただいております。

○岡田将和委員 これ原資が3,500万円という税で賄われております。ユーザーID登録は4,367名、約1割ですよ。この1割しか登録がなかったということは、どれだけ冊子が残ったのかも、しっかり検証していくべきなのではないかなというふうに感じております。

また、3番の事業PRについて、イのところで、イベント期間中のSNS動画広告で若い世代への発信を強化と書いてありますけれども、前のページに戻って、登録者数4,367人と商品応募者数の1,350人、これは年代別のパーセンテージ出てないのですけれども、これは出せないのでしょうか。

○観光交流協会事務局長 アンケートにお答えいただいた方については年代別出せると思いますが、今ちょっと手元に数字がございませんので、年代別の数字につきましては後ほど御報告をさせていただきたいと思います。

○岡田将和委員 私、代表質問でシビックプライドについてもちょっと質問させていただいたのです。シビックプライド、全国の自治体の中では足立区は99位ということで、やはり10代20代30代、若い世代にもっと足立区のいいところを発見していただくためにも、年代別のパーセンテージはしっかりと出していただいて検証すべきなのではないかなと。大変アンケート結果よかった

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ので嬉しいなと思う一方で、このアンケート結果を答えていただいた方は、年代はどれぐらいの年代だったのかなというところがちょっと分らなかったの、質問をさせていただきました。

それと代表質問のときにも質問したのですが、2022年と今回2025年同じ事業者で、今回、謎解き、またクイズイベントというものを行っているのですが、そのときに費用対効果はどうなんだという御質問をさせていただいたところ、2022年は1人当たり640円の単価、そして2025年は代表質問、質問の時点では400円程度というような質問が返ってきたのですが、実際の登録者1人当たりは8,012円ということなのですけれども、きちんと代表質問の際にも1人当たりの単価出していただきたかったのですが、このような報告になっているのはなぜでしょうか。

○観光交流協会事務局長 代表質問の際には、前回と今回で、期間ですとかクイズ数の違いがあった関係で、参加者数ではなく延べ、それぞれに参加した延べ人数での報告をさせていただいたところでございます。

○岡田将和委員 この今回9月から行っているイベントは、私も登録参加者数の1人ですが、この4,367人の1人に含まれると思うのですが、この延べ参加者数8万6,891人ということは、1人当たり平均20クイズやっていると平均の数が出ていると思います。

私自身は謎解きのところしかやってませんので、恐らく、たくさんクイズをこなした方もいれば、クイズを全然こなさなかった方もいるような中で、1人当たりの単価を延べの8万6,000人の方で割ると、かなり費用対効果のいい単価で税が使われてるのかなあというふうに感じはするのですが、1人当たりの単価に戻すと8,000円、2022年、1,600万円掛けて2か

月やっておりますけれども、アンケートの応募者数は5,739名でした。1人当たりの単価は、当時は2,869円という単価ですから、かなり今回の単価というのは割高だなというふうに感じております。

謎解きいろいろなイベントあるのですけれども、安いもので1,000円とか2,000円なのですね。この単価を見て観光交流協会さんはどうお考えでしょうか。

○観光交流協会事務局長 岡田委員御発言のとおり、前回単価に比べて割高になっている部分というのは、担当所管としても認識をしております。

で、今回、区外の方に是非来てほしいということで、広告ですとかそういったところに特に費用を追加したことによって単価が上がったというふうに認識をしております。

○岡田将和委員 私は綾瀬住んですので千代田線に乗ります。千代田線の上部のつり革に大体1車両に1枚、巡って探せ！千住宿の秘宝のチラシがありましたけれども、本当に効果的にこれチラシ打てるのか、そういったところも、そう御答弁なさるのであれば、きちんと報告もいただきたいと思いますし、例えば9月10日から始まって3か月間、事業者とどのようなコミュニケーションを取って進めてきたかなど教えていただけますか。

○観光交流協会事務局長 9月12日にスタート前から、毎週1回、事業者とはミーティングを実施をしております、そのミーティングを通じて情報共有をしながら進めていったところでございます。

○岡田将和委員 こういうイベントをやらないでほしいということではなくて、3,500万円も掛けたのですから、より多くの人に足立区のことを、足立区の魅力を知っていただきたいと思っておりますし、昨年11月に、謎解きマーケットという

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

謎解き業界で初めてのイベントがありました。

私も伺ったときに、10代20代、本当に若い方々が親しんでおられました。今謎解きブームと言ってもいいぐらい、都営や地下鉄、東京メトロ、いろいろなところでいろいろなイベントをやっているんですね。この3,500万円も使うのであれば、もっと効果的なイベントにならなかったのかなという思いで、質疑に立たせていただいております。

今後の方針等というふうにあるのですけれども、やはり、私は足立区に観光課がない観光戦略部がないということは以前からお伝えさせていただいているのですが、今後の委員構成も含めて、もう少し具体的にここも盛り込んでいただきたかったなと思いますがいかがでしょうか。

○観光交流協会事務局長 私も謎解きマーケットを見学をさせていただきました。

様々、大学生も含めて、謎をつくる側の大学生も含めて本当に盛り上がっていたというふうに感じています。また自治体も含めて、都内でもいろいろ謎解き今やっておりますので、謎解きについては有用な手段だというふうには感じております。

今後、協会の在り方については、せんだって、理事会評議委員会でも、議会の方からも御質疑いただいて、今検討しているところでございますので、協会の在り方も含め今後の事業の進め方相当、検討してまいりたいというふうを考えております。

○岡田将和委員 この謎解きが始まる前、謎解きやったことある方いらっしゃいますかと質問したところ、ほとんどいらっしゃらなかったのです。観光交流協会事務局長も期間中いろいろと足を運んでいただいて、謎解きを体験していただいて御努力していただいていることに感謝を申し上げて、これからも期待しておりますので、よろしくお願いします。

○長井まさのり委員長 他に質疑。

○たがた直昭委員 初めに、千本桜まつり、これちょっと確認をさせていただきたいと思います。

今年、3月28日、29日ということなのですが、例年どおりの千本桜のイメージでいいのか、また、今回目玉が何かあるのか教えてください。

○観光交流協会事務局長 例年どおりの実施を今のところ予定をしております。

○たがた直昭委員 目的な。

○観光交流協会事務局長 足立成和信用金庫さん、御協力をいただいているのですけれども、信用金庫さん、100周年という記念の年に当たるといことで、キッチンカーですとかそういったところを、また盛り上げていきたいというふうにお話を伺っております。

新たな新規の目玉というものは今年つくる予定はないのですけれども、友好自治体ですとか、区のPRも含めてしっかり盛り上げていきたいというふうを考えております。

○たがた直昭委員 まずはもう天候であり、そして名称のとおり桜が咲いてるか咲いてないか、これが一番大事だと思うのですけれども、ここで、もうこれは自然的なことでするので、それはもうお祈りさせていただきたいと思いますが、物産展にしましても、例年どおり、成和さん、北足立市場、また地元の町会自治会ということでありますけれども、また新たに友好都市の鹿沼市とか魚沼市さんも参加されますか。

○観光交流協会事務局長 魚沼市、山ノ内町、鹿沼市にお声掛けをさせていただいて、それぞれ各友好自治体の物産の方の販売の方を御協力をお願いしてるところでございます。

○たがた直昭委員 西部地域の桜のイベント、なおかつ北、特に北、北西に住んでる方はなかなか区

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

民まつり等々は足が運べないということで、こちらの千本桜には期待をしておりますけれども、特に町会自治会で地元の町会自治会で出店するところも結構あるのですけれども、場所の関係なのですけれども、例えば前は、前々回かな、噴水のところで何とか町会、何とか町会が出てた、しかしながら今回は、こっち側の南の真っすぐ行ったところに出てた、この場所というのは、いつというのはどういうふうに決めるというか、はい。

○観光交流協会事務局長 場所については協会の方で決めさせていただいております。

出店団体のバランスですとか、特に狭いところに多くのお客様が並んでしまうというようなことのないように、人気のある、特に町会自治会も飲食のブース出展いただきますので、人気のあるブースについてはできるだけ広い場所、その通路の広い場所ということで選定をさせていただいております。

○たがた直昭委員 分かりました。

区は区でそれなりに考えていると思いますけれども、やはり行く方も、あの町会はいつもあそこでやってるよねとか、噴水のところでやって、いつも並んでるよねって、大体もう固定観念で皆さん行かれてるので、その辺はある程度決めていただければと思いますので、ちょっと参考によろしくお願ひしたいと思います。

あともう一点なのですけれども、プレミアム商品券について、先ほど工藤委員がうんぬんいろいろ言っております、私もそのとおりだなということで、今後いろいろ確認をやっていただきたいのですけれども、ただ商品券の購入者、50代40代60代が非常に多くて、若い方がちょっと少ない、この辺の理由というのは何かありますか。

○産業振興課長 私も60代より30代の方が少ないということにちょっと正直驚いておりますが、

やはり商品券という一旦お金を出して買わなきゃいけないというところで、少しまとまったお金のあるその年代の方がお買い求めになるのかなというふうに思っております。

○たがた直昭委員 産業振興課長がそういうことを言うのであれば。

ちょっと1点、このチラシなのですけれども、スマホでこれ、4万円購入すると5万2,000円買えますよ、使えますよということで、このチラシ作ってるかと思います。

せんだっての議会報告資料、これに関しては、取得につき4,000円支払うと5,200円分の足立区の商品券が購入できますよと、これがこういうふうに最初にうたってあるのですね。

こっちは4万円です5万2,000円、こっちは4,000円で5,200円、ここはどういうふうになって、こういうふうになったのですか。

○産業振興課長 チラシの方はちょっと紙面が少ない点、紙面少ない中でPR効果を狙って作ってるところがあります。

議会報告の方は基本的に一口4,000円で5,200円、それで上限が10口というふうにちょっと説明を書かせていただきました。

○たがた直昭委員 やはり何人かで、先ほど若い方も言っていたのですけれども、4万円です5万2,000円というのはすごいと思うのですけれども、では4万円買わなくちゃいけないのってなると、だからイメージ的に4,000円で5,200円の方がよかったのかなというのは、これは後からの結論、意見なのですけれども、今後その辺のことも踏まえて若者対策もしていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

あともう一点言われたのが、先ほども答弁あったのですけれども、商品券の分割購入はできませんと書いてあるのですけれども、これは恐らくP

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

a y P a y 側の事業者側の感覚だと思うのですが、それでも、これ実際はできないのですか、やろうと思えばできるのか。

○産業振興課長 抽せん方式でやってる自治体であれば、1回目の抽せんをして終わった後、余ったものを二次抽選するので、そこで2回購入というのは可能ですけれども、これ先着順で、1人上限までというのがシステム上出来ないというのが現状でございます。

○たがた直昭委員 分かりました。

やっぱり先ほど言ったように、一度試して、よかったらまた買おうと思ったら、できませんよという、そういう御意見もいただいているかと思いますが、我々もいただいておりますので、よろしくをお願いします。

あと、区民の声として、令和5年度が対象店舗に対しての不満、令和6年度店舗リストについての不満、令和7年度が対象店舗についての不満ということで、これは店舗数が少ない不満なのか、どういう形的不满になっているのですか。

○産業振興課長 今年度の不満ですね。やはり自分が使いたい店が載っていないということも御不満があります。

○たがた直昭委員 不満を言ったらもう切りがないし、御意見を言ったら切りがないのですけれども、最終的には自分が買って、どこのお店で使える、その目的がなければ買わないよという部分だと思うのですよね。

私も4万円買わせていただいて、買う目的が、店舗があるから買っただけであって、そこが使えるなければきっと買わないかと思うのですが、恐らくそういう考えの方がいるかと思うのですけれども、先ほども言ってたとおり、もう残り1か月ということであります。あとはもう、若者の対策でいいのか、何の対策でいいのか、やはりSNSを

使って、更なる情報発信で何とかこの事業を最後うまくいくようにということで、最後その点だけお伺いします。

○産業振興課長 SNSですね、XやF a c e b o o kを活用して、より積極的にPRを重ねてみたいと思います。

○長井まさのり委員長 他に。

○西の原ゆま委員 私の方からも足立区プレミアム商品券、P a y P a y 商品券について質問したいと思います。

それぞれの委員からも質問があったのですけれども、今までの質疑を聞いていると、使い方やA券B券とか検証とかいろいろしていくという話もあったのですが、これらの目的は消費喚起策ということで、ほかの自治体も調べました。

中野区のナカペイや渋谷区のハチペイとか、それぞれの自治体で、地域の地域フェアをやっているところは、それぞれの令和6年度の実施状況どうだったのかという検証がありましたので紹介をすると、中野区では、加盟店舗が1,338店、区内経済がどれぐらい影響を及ぼしているのかということも検証でありました、区民が71%を利用していると。杉並区や練馬区が何%だとか、年代別もまとまっておりましたし、渋谷区においては、全体で、決算総額が259億円と、加盟店舗数が4,301件で、利用者数が15万5,480人と、渋谷区民の、区内で52%も独自で造った地域通貨でこのような結果が出ていると、区内の経済、産業の活性化についてもいろいろと検証がされていまして、今回のP a y P a y 商品券は足立区で3月10日までということなのですが、この消費喚起策としてどうだったのか、区内経済の面から見て、地元の店舗がどれぐらいの売上げがあったのか、そして利用者にとってどのような影響を及ぼしたのかも含めて検証すべき

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

だと思いますがどうですか。

- 産業振興課長 Pay Payの商品券につきましては、昨年度までのキャンペーンと違いまして、確実に足立区のお店で使われるという形になりますので、西の原委員おっしゃっていた点も含めまして、事業が終了後、事業の効果の分析については議会の方にも報告してまいりたいと思います。
- 西の原ゆま委員 是非お願いしたいと思います。

次に、千住宿400周年のイベントについてなのですが、この、もの、報告を見ますと、私はすごく胸がうきうきさせられました。

今回好きになった場所というのが、正に自分が生まれて育った生活圏であって、雰囲気のある銭湯がたくさんという意見、千草園はよく友達と遊んだ場所でもあって、河原町の稲荷神社はもう夏休みの朝のラジオ体操で毎日親に連れていかれた場所でもあり、そしてやっちゃ場緑道もやっちゃ場という言葉が新鮮だったというのはあったのですが、この町会の中では、ちょうちん行列をしたりだとか、本当に地元根差した地域で、その場所を区外の方が好きな場所と言ってくれたのはとてもうれしい気持ちでいっぱいになったのですが、当たり前と地元が、地元住民が思ってる当たり前という場所が、区外の人たちにとって好きな場所で挙げてくれるというのは、やっぱり地元住民にもどんどん知らせていく、発信していくことが必要なのではないかなと感じています。

もちろん、今回の目的は、区外の人たちに千住宿400周年というもので区外の人たちにアピールするということはもちろん分かっているのですが、先ほどの岡田委員からも冊子はたくさん作ったけれども、まだちょっと余っているということも含めたら、地元住民の方も冊子を配って、改めて地域の周りにこんな歴史があったんだとか、

こういった面白い点があったんだというのを、まだまだ知られていないこともありますので、近所の周りの住民も冊子を配ってイベントを盛り上げるということもできたのではないかと思いますがいかがですか。

- 観光交流協会事務局長 冊子につきましては、当然、区外の方の来訪目的と、一番の目的とはしてはしましたが、当然区民の方に楽しんでいただくというのも目的にしておりましたので、区民まつりですとか市場まつりですとか、あと千住で様々なイベントやってるイベント会場でも、私ども観光交流協会の職員、冊子を持って出張って、冊子をお配りをしておりました。

今もうイベント終了してしまうので、これからの冊子の配布というのは難しいのですが、様々な区の方、区外の方、千住でここがよかったという御意見様々いただいておりますので、今後の観光施策の中でPRですとかイベント等に、この結果についてはしっかり生かしてまいりたいというふうに考えております。

- 西の原ゆま委員 私も千住に住んでいて、町並みがどんどん変わって、情緒あふれる下町らしさというのが薄れてるようなも感じております。

今回の雰囲気ある銭湯がたくさんという方は、区外の方たちからそう思って、すごくうれしい気持ちもあったのですが、やっぱり地元住民からしたら、あそこの銭湯もなくなった、ここの銭湯もなくなった、自分が住んでいる生活圏で4軒ぐらいもうないのですよね。

だからそういった下町の情緒あふれるよさ、下町のよさをこれからもアピールしていく立場で頑張っていただきたいと思います。要望です。

- 長井まさのり委員長 他にございますか。
- 加地まさなお委員 私も何点か質問させていただきます。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

まずは海外販路ですかね、海外販路拡大支援事業について伺いたいします。

これ、今回、令和3年から約4年間、およそ約9,000万円ぐらい投じて行われた、実施されたと思います。その結果、現地で開拓販路が、販路開拓された方が事業者、3社ということだと思います。

これも率直に、まず区として一定の成果を上げた事業と評価しているのか伺いたいします。

○産業経済部長 やはり必ずしも成果を上げられた事業だというふうには言えないというふうなところでございます。

○加地まさなお委員 私もそのように感じております。

これ、費用対効果の面とか、いろいろ複数で、単年度でやってないというのはすごくいいなと思ってるのですね、やっぱり時間が掛かるとここに書いてあるそのとおりだと思うのですが、結果やってみて、これ費用対効果の面と課題というのが率直にどんなものなのかなというのを聞かせていただきたいのですが。

○産業経済部長 この事業、令和3年度から始めまして、伴走支援という形で複数年度でやってまいりました。

10社参加して、一斉、みんなで海外の展示会に行きましょう、そこでその足立区の商品をPRしましょうというふうなやり方だったのですけれども、私昨年度、現地に講師の方に行きまして、やっぱり10社まとめて展示会に出ると、このブースって何をPRしてるのだからよく分からないというのが私自身の印象だったし、向こうのバイヤーさんに聞いてみたら、やっぱり同じことを言っていたのです。

先ほど海外をやめる理由のところに、全体で出るとPRしづらいというふうに書きましたけれど

も、商品の特徴が本当に出しづらいというふうなところがあります。

また、10社あるのですけれども、それぞれ成長のスピードが違ってきてまして、二、三年でもう単独で打って出た方が独自にPRできていいような業者さんも出てきたりというようなところもあるので、やっぱりレベルに合わせた支援の仕方というのをする必要があるだろうというふうに考えました。

だからこそ、ブランド力のあるなし、それから海外経験のあるなし、それによって支援の仕方を変えていった方がいいのではないかとということで、来年度は5ページ以降にあるような仕組みの方に変えさせていただいたというところでございます。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。今のよく分かりました。

あとこれかなりの経験値は足立区も積んだと思ってるのです。

それとやっぱり、これから足立区の人口も増えていっていますが、税収のことを考えるとやっぱり新しい企業さんとか生まれて、この足立区で事業やっていただきたいというのが目的にあるのかなというふうに思います。

ここで、せっかく経験値もあって、これから、失敗も必要だと思っているので、これを投資的な予算だと私は感じています。

その中で、これ一旦切ってしまうという中で、いろいろこの課題ですよね、達成状況と課題見せていただいと、本格的に海外★★を目指す事業者がいらないのが、これ、企業者さんの意欲の問題なのか、それとも区の周知とか、またこの支援の伴走、支援と等も含めて、この設計に何か問題があったのかなというふう考えたのですね。

その辺というのはどういうふうに捉えてるかなあというふうに、私としては、ここで一旦切って、

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

このジェットロに渡すと、海外事業の展開はというふうに書いてあるのですが、そもそもこれジェットロの方に渡すというのも何を基準にお渡しするのかなとか、10社、多過ぎてできなかったのならば、より絞る、前段階でちゃんと基準を審査をして、少なくして一緒に行くということをするのは、区としては、かなり経験値が上がるので、海外を見るというのは非常にいいことだと思ってるのですね。それをできなくなってしまうというふうに思うのですが、その点いかがでしょうか。

○産業経済部長 実際のところ、海外販、全てジェットロに渡すというふうなわけではなくて、産業振興課の方で国外見本市の助成事業というのがあります。そちらの方で、出展をされる方々に対しては、我々が紹介する助言をするアドバイザー、そういった方々を就けますので、そういった方々からフィードバックというのは得られるというふうに考えております。どういうふうな助言をして、どういうふうな成果があったかというふうなヒアリングは可能だと思います。

また、これまでこの事業で培ってきた経験につきましては、例えばマッチングクリエイターですとか、そういったところとの共有をして、仮に海外に打って出るというふうなお話を聞けば、これまで得た知見、例えば値段の付け方が地域によって違うですとか、消費の★★、それからOEMを求めている地域はどこら辺にあるかですとか、そういったことも踏まえてアドバイスをするような、そういった体制をつくっていききたいなというふうに思っております。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。それ聞いて安心しました。

これすごくいいスキームだったと思ってるので、形を今変えて、これで検証していくのだなというのが分かりましたので、さっきは、ただこれ自走

できる事業者さんと、そうでない事業者さんの見極め、この間というのですかね、この見極めってすごく難しいと思うのです。

その辺も含めて、そういうマッチングクリエイターの話もあるのですが、まずは経験等を教え、共有していただいて、その辺でこれからも全てマッチングで★★と思ってますので、今回の新しい方向性もやっていきながら、こっちの課題も検証していただいて、もしかしたらこっちでもよかったのかなあというふうになったときは、もう一度戻るといことも必要かなと思います。その点ちょっと最後、どうでしょうか。

○産業経済部長 物を売るとい行為に関しては多分正解ってないと思いますし、トレンドですとか技術ですとか、そういったものは日々刻々変わるものだと思います。

トライアンドエラーというのを考えているので、そのときによりよい方向というのを取捨選択していく、その中にはもしかしたらまた元に立ち返ってというふうなこともあるかもしれません。それはそのときに、その都度しっかり判断をして進めていきたいというふうに思います。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。

すみません、次、プレミアム商品券の方、Pay Payの方を聞かせていただきます。

先ほどから皆さん、他の委員の方がおっしゃってくださったので細かいこと言うつもりはないのですが、正に工藤委員がさっきおっしゃったように、これ、次のことを考えてということで、多分毎回毎回、委員会で話し合っ、区外が★★ちゃってるよねと、今度区内だよねと、やってみて、いろいろな問題が出てきて、毎回毎回何か対処療法的になっていると、費用だけが増えていっていると。

今回も達成目標はたしか、ちょっとあったのか

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

という確認忘れてしまったのですが、60%いけばいいよねとかいう中で、これ次を考えるのに、さっきの海外販路と一緒にのすけれども、これマッチングがそもそも本当に必要なのですね。うまくいっている事例も含めて、しっかり全てを調べた上で次もやっていかないと、結局また次もあんまりうまくいかなかったよねみたいな。

何か潰してって潰してって、結果何かどんどん分かりづらくなっちゃって、今回も10口買えるけれども、次それが分けて買えるようになったとしてもですよ、今の買わなかった理由は4万円を出せる若手、若い世代が4万円を一気に出せるほど、出したいと思えるほどの使える場所がないということもあるのではないかなというふうに思うのですが、その点いかがでしょうか。

○産業振興課長 先ほど年代的にまとまったお金がという話もいただきましたが、あと商品券というその文化が、もしかしたら若い層にはないのかなというふうにも思ったりもしておりますが、どうですかね。

ただ、今後、お店が、消費喚起策ですけれども、区内の小規模のお店を応援しなきゃいけないという使命もございますので、人によっては行きつけの美容院があったので、そこですごくふだんよりぜいたくに使えたってお声もいただいています。焼き肉屋さんで使ったよとか、そういった声を集めて、来年度始めるときには、どんなふうに使おうと使いやすいかということもPRしていかなければいけないのかなと思っております。

○加地まさなお委員 いや、本当そのとおりだと思います。

お店で美容院とかで使えるんだったらお得なので、1万2,000円分、4万円突っ込めばって、突っ込めって言い方がちょっとあれですけども、購入すれば得だから、何回分か無料になるかなと

かいうふうに思えば、転換できれば、多分若い人って買うと思うのですが、これデジタル商品券に何かちょっと理解がないとかということではなくて、そもそもPay Pay使ってるので、これはもう周知の仕方が間違えているというふうにはまず思わなきゃいけないと思います。

それで私も妻に、これはもう買った方がいいよと言いました、4万円購入してくださいと。そしてたまたま調べると。調べづらいのですね、自分の住んでいるところから、大体行動範囲って主婦の方って決まってるではないですか。そうすると何か、この辺までというの見るのも一回このマップをやって調べて、今度A券とB券で分かれてる。これは若い人はできるかもしれないけれど、ちょっと年配、年配というか、★★の方は分かりづらくて、ああとなっちゃうのですね。

そういったところも含めてもっといいやり方、瞬間的に使えるようにできるやり方というのですかね、感覚でいけるものというのが必要なのではないかなというふうに思っています。

もうこれ抜本的な問題なので、これはもう次回第2の出口を、第2の考え方を持つてなきゃいけないと私も思うのですね。

その上で、先ほど西の原委員も、他の自治体で、これ地域通貨なのでちょっと枠組み違うかもしれませんが、持っているところはそこにマッチングできてるのですよ。これをやっているわけではないですか。ということは、それは検討はするべきだと私は思うのですが、いかがでしょうか。

○副区長 地域通貨の導入ですとか新しい方法については、当然区としても検討しているべきですし、していきたいと思います。

今までは産業経済部が中心に、いろいろなところの自治体を調べてやってきましたけれども、やっぱり区全体として、様々なボランティア活動の

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ポイントですとかそういうのも含めて、どうするかということを今度、政策経営の方で実施していく、リードしていくということを考えてますので、もう少しお時間いただきたいと思います。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。

それ本当期待して、多分足立区は、実は私はずっと会派でも、個人的にも、ずっとブロックチェーンを使った地域通貨、仮にアダペイとしますが、入れれば出口がありますよというのはお伝えさせていただいて、今、生成AI、多分皆さん足立区もグーグルといい関係を持って、どんどん生成AIを使っていく、AIを使っていく、生成AIを使っていくというふうになっていると思うのです。

この地域通貨と生成AI、AIって別かなと思うのですが、これ今ウェブ4.0という世界にこれから入るというふうに出ています。

ウェブ4.0の世界というのは、正にこのAI、生成AI使いながらブロックチェーン基盤を使うということを掛け合わせと、より広がりがあるんだよということを言ってますので、そういう視点も持って、是非、地域通貨も検討にしていっていただきたいと思います。要望させていただきます。

最後、千住宿、この開催、私は今回になるまで、この謎解きっていうの全くはやってるのも知らなくて、岡田委員の前々回の委員会の質問とかで聞かせていただいて、これ若者に相当、求めて来るんだなというのが分かりました。

この中で、アンケート見させていただくと、足立区の魅力が、また神社の大きなあれですね、神社に行って、ごめんなさい、何とか、ちょっとそれ飛ばしますが、歴史があるのだということがよく分かったというところで、足立区の歴史というのが区外の人に伝わったという点はよかったと思うのですが、これ、そもそも発信が区内の方だけ

ではなくというところで、区外の方に相当、来ていただきたいという点で、周知、啓発、プロモーションを含めて内容も作っていったと思うのですが、その点はクリアできたというふうに考えていらっしゃるのかお聞かせください。

○観光交流協会事務局長 報告書にもあるとおり、47%の方が区外から参加をしていただけてるということです、もう当初目標としていた区外の方にも訴求をしたいというところはしっかりクリアできているというふうに考えております。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。

私もそういうふうに思います、このアンケートを見ると。

ということは、次回またこのクレスト形をやるときは、足立区はこういう歴史的なところが魅力だと思われる。さっき西の原委員言ってたように、足立区の下町の情緒というのも魅力なんだという中で、まちも変わってきてしまっている、そこをしっかりと、もう一回次にやるときは、せっかくいいデータがあるのでそれを参考にして新しいイベントを、クレストをつくっていただきたいと思います。それ要望させていただきます。

最後なのですけれども、これアンケート見て、区外の中で、どこだったかな、もう来ないと思うというのが、97%ぐらいがいい意見がデータでは見えるのですけれども、それは理解してます。ちょっとこの、もう来ない、理由というのは、よっぽど何かあったのかというふうに思っていますので、そこで何か、もしアンケートで理由が分かれば教えていただきたいと思います。

○観光交流協会事務局長 もう来ないという方、全部で3名ですけれども、お1人は距離が遠いので電車賃を掛けてまでは来ないという方がお1人。あとお2人は、恐らく御家族か御夫婦だと思うのですけれども、近くに住んでたのだけれども、遠

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

方に引っ越してしまうのも来ないと思う。

○加地まさなお委員 これも距離的なもの。

○観光交流協会事務局長 はい、距離的な、両方とも距離的な御回答です。

○長井まさのり委員長 他にございますか。

○加地まさなお委員 はい。大丈夫です、以上で。

○長井まさのり委員長 いいですか。

○佐藤あい委員 ごめんなさい、他の委員の皆様からもいろいろと出ておりますプレミアム商品券について少しだけ、ちょっと触れさせていただきたいと思います。

実際に、お若い世代の方があまり購入されていないという状況を伺いました。

私自身も同じ世代、三、四十代の皆、友人だったりとかというところに聞いてみました。

そうしますと、P a y P a y 商品券というものの、プレミアム商品券が始まったということは知っている方が多かったのですが、実際に購入をしている方がなかなかいらっしゃらなくて、どうしてかなということで聞いてみましたところ、やはり、本人確認という、P a y P a y はふだん使っている、本人確認までもともとやられてなかった方が、そこが面倒くさかったりとかというところがまずあったのと、やはりどこの店舗で使えるか、今までのお話にもありましたけれども、やはり店舗がよく分からないと。

実際にもいろいろお話をしていると、あそこの店舗でも使えるのだったら買おうかなとかというお話があったりするので、やはり使えるお店の分かりやすく伝えていくことはすごく重要だと思いますし、そこに関しては、これからでも間に合うのであれば是非、分かりやすい店舗の一覧といいますか方法、分かるような伝え方というのをちょっと、次年度、次回以降に向けてというよりは、今回に関して何かお知らせできないのかなと思う

のですが、いかがでしょうか。

○産業振興課長 ちょっとお店の方が本当に入れ替わりが、特に飲食店等激しいところがありまして、前やってたけれどもうやめちゃったりとか、あと、当初、P a y P a y の商品券扱えますよと言っていたお店が途中からやっぱりやめますというのも、割と動きが激しいところがありまして、なかなかちょっとこちらで確定した形で出せないのが現状でございます。

それが分かりやすくというのをちょっと P a y P a y の方には引き続き申入れしていきたいと思いますが、ちょっとまだ現状では厳しい状況でございます。ただいろいろところで使えるということは伝えていきたいと思います。

○佐藤あい委員 承知いたしました。その難しさというところは分かった上で、やはり使っていたけると、使った方からは結構好評だと思うのですよ、なので、ちょっと面倒くささとかを乗り越えていただくと、よかったなというふうに変わっていくのかなと思います。

特にこのママパパ世代の方々の方があまり使っていないというのが結構驚きで、ファミリー世帯とかだと、期間がある程度あれば4万円という金額も結構使える可能性高いと思うのですね。そういったところにファミリー世帯に関しての周知というところは何かやられていますでしょうか。

○産業振興課長 ファミリーというわけではないのですが、子育て世帯ということで豆の木メールの方は活用させていただきました。

すみませんちょっと、30代が少ないと申し上げてしまったのですが、60代の次に30代が来てます。それがちょっと、2%ぐらいの差ではあるのですが、60代より少なかったというところでちょっと自分自身、あれというふうな思いがあったので、ちょっと少ないと思い、申し上げ

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

げましたが、60代の次に30代が2%の差で御利用いただいている状況でございます。失礼しました。

○佐藤あい委員 承知いたしました、30代はある程度使われているというところではございましたけれども、やはり用意をしている分、予算の分、できる限り60%とは言わずというふうに思っておりますので、ちょっとできる限り残りの期間、周知というところで強化をしていただきたいと思います。

先ほどありましたようなSNS等も是非早急に活用をしていただいて、どうしても販売期間と終了が一緒になってしまうので、そこがもう、本当に急いでいただかないと使い切れないというところで、使い切れないかとも思うともう買わないとなってくと思うので、後半は売れなくなってくと思います。

もう本当に今月中がまずは勝負というふうに思っていて、動いていただきたいと思います。こちらは要望です。

あと次、ごみ屋敷対策について確認させていただきたいと思います。

やはりごみ屋敷対策、足立区はもう先進的に進めていただいているなど認識をしております。

ごみ屋敷、放置をしていくと本当に、御本人の生活環境もそうですけれども近隣に対して与える影響というのはとても多いと思っています。

そういった中で、更なる取組を行っていただくということですが、まず新規で自己保有物の一時移動支援ということを始めたいということですが、こちら別の場所にするというのは、その場所は区の方で何か場所を用意をして移動をするということなのでしょうか。

○生活環境保全課長 現時点の想定としては、委託を事業者さんと結んで取り組んでいこうと思って

ます。

委託事業者で、指定していただいた区内の別の場所を構えさせていただいて、そこに保管などしていくという、そういった段取り考えております。

○佐藤あい委員 ありがとうございます。

例えば複数の方のものを、決まった倉庫のようなところに預けるような形になるのでしょうか。

○生活環境保全課長 1つの場所に一括でまとめるのか、別の事業者さんにまた頼むのか、ちょっと今考えているところですが、いわゆる別の場所の指定場所ということでございます。

○佐藤あい委員 となりますと、まだこちらにも支援事業に関して掛かる、想定される予算とかというのは見立てとかはあるのか、まだここから練っていくのかをちょっと教えていただけますでしょうか。

○生活環境保全課長 大体1件当たりというのですかね、それは50万円というのを想定しております。

ただ、全体のこの予算というのは、何分、来年度からの取組でございますから、また議会で審議いただいて、それで決めていくという流れになります。

○佐藤あい委員 ありがとうございます。

このまず、その1件の50万円の中には、移動をさせるための運搬費と、その場所代も含めて、大体1件で50万円に収まるようにみたいなイメージということでよろしいでしょうか。

○生活環境保全課長 佐藤委員おっしゃるとおり、一括の経費を見込んでおります。

○佐藤あい委員 承知いたしました。

結構な予算を1人に、1件当たりと思うと結構な予算掛かっていくのかなと思いますけれども、ただ、処分がなかなか進まなくて長期化しているということを考えますと、まず一旦捨てるわけで

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

はなくて移動をさせるというところで、まず一歩踏み出していただくというところでは、効果が出るのではないかと期待はしているところではあります。

ただその後、結果的に捨てますとなると、更にこの次の処分費用というところの支援もしていくということでよろしいのでしょうか。

○生活環境保全課長 おっしゃるとおり、まずはお試しの支援ということで新規で立ち上げて、従来の本当に処分するというところは、今回拡充ということで100万円上限にさせていただきましたけれども、これをセットで希望者には行うという想定であります。

○佐藤あい委員 かしこまりました。そうすると、1件当たり総額150万円は掛かる可能性があるというか使える、使える枠があるという中で、解決をしていこうということによろしいのでしょうか。

○生活環境保全課長 佐藤委員おっしゃるとおりです。

ただし、やはり公金を使わせていただくということなので、支援については、附属機関、生活環境保全審議会という今ありますので、そこで審議委員の皆様、御自身の支援者の支援と同様に、地域全体でもこれがやはり効果あるかどうかという視点でも御審議いただいて、金額とともにお認めいただくという、答申いただくというそういった形を取っております。

○佐藤あい委員 ありがとうございます。

ではその、そこで審議をして認められるかどうかということに関してですけれども、そこで皆さんで判断をしていくということだと思っておりますが、現時点でこういった条件というものがあるわけではなく、例えば近隣からの苦情が来ているというところが必要だとか、何かこれが使えるた

めの最低条件みたいなものというのは決めていらっしゃるでしょうか。

○生活環境保全課長 審議に当たっては様々なチェック項目といいますか、条件があります。

その一部がやはり、緊急というか緊急性といいますか、やはり地域全体の生活環境がやはり乱れている、悪化しているということと、それが支援によって効果ができるかというか、そういった視点も踏まえながら皆さんに判断してもらってると、そういうふうな形を取っております。

○佐藤あい委員 承知いたしました。

本当に、ごみ屋敷というものがあることで、近隣の方の生活も本当に危険にさらされることもありますし、自然発火のリスクなどもあると思いますし、不動産価値でいうと、そういったごみ屋敷、見るからにごみ屋敷というものがあると近隣の住宅の不動産価格も下がっていくというような被害も出てきますので、そういった意味では、もちろん御本人がやっていただかなきゃいけないので、まずはそのアプローチだとは思うのですけれども、それ、御本人へのアプローチをした上での、こちらの支援を使うという御認識でよろしいでしょうか。

○生活環境保全課長 おっしゃるように、まず第一はごみ屋敷の所有者といいますか、その方に対する、いわゆる寄り添い支援、おせっかい行政とか言いましょうか、それがベースにまずあります。

その上で、やはり、ごみ屋敷対策の大きな目標というのは、地域全体の生活環境をどうしていくかということですので、近隣住民とのバランスも取りながら、何が一番いい方策なのかというのを探り当てていくというところでございます。

○佐藤あい委員 ありがとうございます。

是非そういった御本人に対しての支援の中で、精神的な部分、精神的な疾患が関わるようなケー

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

スも多々あるかと聞いておりますので、そういった精神面のフォローをというところ、医療機関につなげるということもあるかと思うのですが、医療機関につながった後に例えば実際に通院を続けているのかとか、カウンセリング継続をしているかみたいなのもしっかりと、区の方でも確認をしていただくという体制になっているのでしょうか。

○生活環境保全課長 今、足立区の支援の取組としては、いわゆる多機関支援といいますか、福祉丸ごとというようなイメージで、医療、福祉、様々な所管とチーム組んで、対応させていただきます。それぞれの支援の特性を生かして、チームで所有者に寄り添っているというそういった現状ございます。

○佐藤あい委員 ありがとうございます。

やはり本当に精神的な部分をサポートしていくということがすごく重要になってくるので、そういった取組は是非継続をしていていただきたいなというのと、やはり片付いた後にまたごみが増えてしまって、また片付けてくださいとか、あるいはこうやって区がやってくれる、お金で、出していく、やってくれるんだったら、その方がいいなと思われてしまうと、それはまたマイナスでもあると思いますので、そういった部分は丁寧にやっていただいて、しっかりと自立をしていただけるような支援にしていきたいと要望しまして終わります。

○長井まさのり委員長 他に質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○長井まさのり委員長 質疑なしと認めます。

————— ◇ —————

○長井まさのり委員長 次に、その他に移ります。

何かございますか。

○佐藤あい委員 申し訳ありません、1点SNSを用いたプラスチック分別回収の周知キャンペーンについて、アマゾンギフトカードを配布をするという事業について、ちょっと確認をさせていただきたく思います。

こちらXを活用して、こちらはフォロワーが多いからということですね、Xを活用して、この周知をしていただくと、なのでリポストをしていただくというようなものでありますけれども、こちらについてちょっと詳細、★★をお渡しする条件というのをちょっと教えていただけますでしょうか。

○足立清掃事務所長 条件としましては、足立区の公式のアカウントをフォローしていただくことがまず第一条件でございます。

区の方から公式に4月からプラスチックの分別回収が始まりますので御協力くださいといった旨の投稿と、それから、区のホームページで注意事項等を書いてあるURLを書いて投稿をいたします。

それを御自身のアカウントでリポストしていただいた方を、こちらの方で報道広報課の方で、どの方IDの方がアカウントの方がリポストしていただいたかというのを確認する仕組みがございます。後からランダムな抽せんを行います。

抽せん当たった方にこちらからメッセージをしまして、安全な情報で御住所等の発送先の方を確認させていただいて、送らせていただくという、そういう流れを考えております。

○佐藤あい委員 ありがとうございます。

そうしますとまず、対象となる投稿は1つということで、その決まった1つの投稿をリポストしていただくと。特に引用とかではなくても、ただリポストすればオーケーというような認識でよろしいですか。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

○足立清掃事務所長 佐藤委員、御発言のとおりです。

○佐藤あい委員 ありがとうございます。

こちらで一番ちょっと私の方で心配をしている点があります。

SNSを使った周知というのはすごくいいなと思っている一方で、ギフトカードを配布をすることになると、その中で複数のアカウントを同じ人が作ることで、Xは簡単にできると思います。1人で本当に10件でも作れちゃうみたいなことがあります。

そういった部分で同じ方、お1人様1応募ですよみたいなことがあるのか。それとも、複数アカウントに対してのチェックというところはどのように考えていらっしゃるのでしょうか。

○足立清掃事務所長 まず応募の条件なのですが、1世帯につき当選は上限を1つというふうに考えております。

佐藤委員おっしゃった複数アカウントを持つ方の成り済まし防止につきましては、今回実はギフトカードを電子ギフトでということも検討したのですが、成り済まし当選を防ぐために、アナログではあるのですが、商品の発送に関しては実住所の方に送らせていただくという形で成り済ましを防止しようというふうに考えております。

○佐藤あい委員 承知いたしました。安心いたしました。

やはりアカウントだけの状況ではなく、しっかりと住所も確認をした上で1世帯1つしか当たらないようにということをやっていただけないかなというので、ちょっとこちらでしっかりと周知が広がることをちょっと期待をしたいと思います。

ありがとうございます。以上です。

○加地まさなお委員 私も1点だけ、今、正に同じポイントで、このプラスチック分別のところでは

これ先ほど言わせていただいたように環境、CO2削減につながるという周知の仕方は間違いなくやった方がいいと思います。

それと同時に、ここに書いてあるのが若年層ですよね、これまず10代から30代というのがちょっと大きくてよく分かりません。と同時にXにした理由がフォロワー数が多いから、でも届けたところが若年層、若年層でXをやってる層というのはどれぐらいだと思われるかお伺いします。

○足立清掃事務所長 申し訳ございません、今手元に区のクロス集計のX登録者の年代別データというのがございますので、後ほど、区で把握するものであれば把握して加地委員に報告させていただきたいと思います。

まずSNSを使った、若年者に対してのSNSを使ったというのは、あくまで今までの紙媒体ですとか町会自治会向けの説明に対しての相対的なもので、若年層ターゲットというふうに書かせていただきました。

一定★★のシニア層でも、SNSで特にXを使っているという事実は私も把握はしておりますけれども、より今までの比較的地域に接点があるシニア層以上の方だけではないところをターゲットにしてXを使ったというところで、既存の媒体より更に若年、よりは、若年層にリーチするものというふうに考えてございます。

○加地まさなお委員 すみません、今の聞いて、早めに終わろうと思ったのですが、分からなくなっていました。

目的が、リーフレット等従来の広報媒体では到達しにくい若年層にSNSを通じてなのですね。だとするとここが目的のように、案にも持ってきているので、に私は思います。

今違うという点もあるというのは理解しました。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

それで考えると、フォロワー数1点で、今後調べていただかないと分からないですけれども、普通に考えたら若年層はXほとんどやりません。Instagram、TikTok等です。そこでメッセージもやり取りをしているというのが現状だと思います。

なので、これ効果が出るのかなというのが疑問です。若い方に早めに環境問題も含めて考えていただくなら、なるべく若いうちから、この環境問題、しかも足立区こういう取組してるんだというふうなことを周知、啓発、発信していただきたいと思うのですが、やはりInstagram等も検討していただきたいと思います、どうでしょうか。

○足立清掃事務所長 実はこのリポストキャンペーンは当所管以外にも既に実施した所管がございまして、ほかの所管の方でInstagramで実施したところ、条件こそ違うのですが、投稿が2件に終わったということがございました。

そう思いまして、利用者率等は利用者がInstagramの方が若年層が多いというのは私も想像はできるのですが、まず母体が大いところを狙おうとかいうところでXを選ばせていただきました。

今後、ほかの媒体の使用については、今回のキャンペーンを実施してみて効果を測定して考えていきたいと存じております。

○加地まさなお委員 最後になりますが、Instagramも始めたばかりなので、まだまだ。Instagramというのはやっぱり写真がすごく大事なのですね、文章よりも直感的なものなので、それはまた、どういうふうに発信するかというのはシティープロも含めて検討していただきたいと思います。

それとこれ、どうしても検証目的のままで増え

て、リポストしていただくというのが、現状になると思うのです。それとその先に、このキャンペーンの効果測定、これインプレッション数とかだけではなくて、実際どういうふうに行動変容したのかなというところも見れるような段階になれば、これは環境問題が進んでいるというふうに思っていますので、その点も含めて是非データ等取っていただければと思います。要望させていただきます。

以上です。

○長井まさのり委員長 他に質疑ございますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○長井まさのり委員長 なしと認めます。

以上で本日の案件は全て終了いたしました。

これもちまして、産業環境委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午前11時55分閉会